

令和 2 年度
生駒市教育委員会主催
夏期研修会のまとめ

令和 2 年 9 月

令和2年度生駒市教委等主催夏期研修一覧

研修会名	内 容	対象者	期 日	人数
スマホ・SNS研修会	スマホ時代に生きる子どもたちに、大人ができること 講師：NPO法人 奈良地域の学び推進機構 理事 石川 千明 氏	小中 教職員 保護者	8月6日 (木)	47
生駒市熱中症 予防対策研修会	子どもの発汗能力と熱中症予防 講師：大阪国際大学人間科学部スポーツ行動学科 教授 井上 芳光 氏	保幼小中 教職員 保護者	8月18日 (火)	155
生駒市 教育研修会	※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止 コミュニティ・スクールに関する研修 講師： 奈良県CSアドバイザー 新谷 明美 氏	保幼小中 教職員 保護者	8月11日 (火)	
特別支援教育 コーディネーター 研修会	※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止 吃音や構音について 講師： 奈良総合リハビリテーションセンター 秋田 靖子 氏	保幼小中 特別支援 コーディネーター	8月3日 (水)	

スマホ・SNS研修会 実績報告書

【日 時】 令和2年8月6日（木）10：00～12：00

【場 所】 生駒市コミュニティセンター 会議室 402～404

【講 師】 NPO法人奈良地域の学び推進機構 理事 石川千明氏

【参加者】 47名（小学校13名、中学校10名、小学校保護者17名、中学校保護者7名）

【テーマ】 スマホ時代の子どもたちに大人ができること

【ねらい】 小中学生のスマートフォン所持率が高まると同時に、LineやTikTok、Instagram、YouTube等のソーシャルメディアを子どもたちが気軽に利用できるような環境になった。学校や家庭では、既に使用ルールの設定や情報モラル教育を行ってきたが、盗み撮りや個人情報の流失、いじめなどの生徒指導事案は増加傾向が続いている。そこで、コミュニケーションや調べごとなどで、子どもだけでなく大人にとってもなくてはならない存在となったスマートフォンと、どのように向き合っていけばよいのか、教職員と保護者が情報共有し共に考える機会をつくる。

【コロナウイルス感染予防対策】

- ・席の間隔を一席分開ける。
- ・参加者のマスクの着用及び手指消毒の徹底
- ・参加者の座席把握（アンケート用紙に氏名と座席番号を記入）

【アンケートより】

1. 本日の研修内容について

	1 とても良い	2 良い	3 普通	4 あまり良くない	5 良くない
小学校	7	6	0	0	0
中学校	5	4	0	0	0
保護者（小）	13	0	0	0	0
保護者（中）	2	3	0	0	0
合計	27	13	0	0	0

◆ 主なご意見

- (1) 子どもたちに伝えるきっかけを具体的に指示していただいて、今日帰ってからすぐに実践できることばかりだった。親自身が頭でっかちにならず、子どもと一緒に考え、家のルールを決めていきたいと思った。（小・保護者）
- (2) 具体的で身近な話が多かったので、分かりやすく聞きやすかった。（小・保護者）
- (3) スマホが問題ではなく、そもそも「不適切な行動が問題」であることが分かった。自分でもちゃんと子どもに教えられているか心配になった。普段から親子でいっぱい話していれば身につくかと思うが、つい「分かっているやろう、このくらい」と思い、ちゃんと言葉にして言っていないかもしれないと思った。学校でもう一度聞きたいと思った（小・保護者）

- (4) ネットやスマホ自身が悪いのではなく、心を育てることが大切だと再認識した。(中)
- (5) 今までいろいろな SNS 関係の研修を受けてきたが、聞きたかったことをほとんど教えてもらうことができた。(中・保護者)
- (6) 「ネットの人とは会ってはいけない!」「撮らない・撮らせない!」「いたずら半分でもどう怖いのか」などを教えていかないといけない。学校でもしっかり教えていただきたい。親も学ぶ場が更にあり、今回の研修も全員見られるようにすることが大切だと思った。(小・保護者)
- (7) コロナの影響もあり、リアルで周囲と関わるのが少ない中、どうすればコミュニケーションを育成できるか、今後の課題だと感じた。良し悪しをしっかりと判断できる大人になれるように、上手に SNS を利用していきたいと思った。(小)
- (8) 中 2 の生徒に対して、自分と他者との違いを知る学習や、自分と同じくらい相手を大切にする学習をしている。SNS トラブルと聞くと、使い方について目を向けてしまいがちだが、それ以前に大切なことがあるということを確認できた。(中)
- (9) ネットの使い方やそこで起こりえるトラブルなどが、主に取り上げられているが、そこに結び付く前の行動に指導していく必要があると感じた。教員にとってみれば、難しい、分かりづらと思うことではあるが、これからの時代に向き合っていく必要がある。教員側も理解して、子どもたちに向き合っていくことが大切だと感じた。(中)
- (10) 以前にも石川先生からお話を聞いたが、さらに新しい情報が追加されていて、とてもためになった。(中)

2. 本日の研修の内容は、授業実践や生活で役立ちますか

	1 とても良い	2 良い	3 普通	4 あまり良くない	5 わからない
小学校	6	7	0	0	0
中学校	7	3	0	0	0
保護者(小)	11	2	0	0	0
保護者(中)	1	3	0	0	0
合計	25	15	0	0	0

◆ 主なご意見

- (1) 生徒のネットモラルについてどのように考えさせるのかが、G スイートも始まり急務であったが、今日の話聞き、まずは普段の生活の中で、ダメなことについてしっかり考える力をつけることが大切だということが分かった。(中)
- (2) 子どものネットとの関わりについて、指針が自分の中で見えてきた。ネットと子どもの関わりは、閉ざされているからこそ、規範意識が大切だと思った。(小・保護者)
- (3) ネットが危険とか怖いとかをどうやって教えたらよいかと思っていたが、実際のニュースと一緒に見ることで感じさせられるなら、私にもできると思った。(小・保護者)
- (4) 大人は、ネットは怖いものという認識があるが、子ども達には、身近にあって当たり前すぎて、怖いものだからという認識ではないということを知ることができた。やはり、教育の根本は、規範意識の醸成にあると、改めて感じた(中・保護者)
- (5) 「ネット＝リアル」という今の子ども達の現状を気に留めて、ネットの危険性を先に分かりやすく伝えないといけない重要性に、改めて気づかされた。(小・保護者)
- (6) SNS 関係なく、善悪の判断を自分たちでできるように、答えをすぐに言わず、なぜそれが良いのか悪いのかを常に投げかけることで、考える力も身につけることができたと思った。(小)

- (7) 紹介していただいたビデオだけでも、SNS 対策授業で役立つと思った。(小)
- (8) 高学年の児童の研修(学習)に参考になった。他の教職員にも伝えたいと思う。(小)
- (9) ゲームやYouTubeをやめなさいというのみで、その後のことを考えていなかったため、ゲームをやめたら、他の時間を何に使用するか、一緒に考えてあげようと思った。フィルタリングも、小さな子どもなので、特に必要だと思った。(小・保護者)
- (10) 「人としてどうなのか」「善悪の判断」「簡単なボタン一つでどうなってしまうのか」「言葉も読み返したり、読むときも寛容に！」など、文字だけの受け取り方の注意点を伝えなければいけない。考えさせられた。(小・保護者)

3. スマホ・SNSで一番困っておられることを具体的にご記入ください。

- (1) 全国的にスマホを学校に持ってくることは、条件付きで認可し可能へ向かっている。その際、各学校の事情を考慮したうえで、どこまでの範囲、責任などをどこまで認めていくのか悩むところである。(中)
- (2) スマホトラブルによる指導で、プライベート空間へどこまで入ってよいのか悩む。(中)
- (3) 指導する側より使用する側(児童生徒)がよく知っているため、対応に遅れてしまうことに悩む。(小)
- (4) 人それぞれ価値観や育ってきた環境が違うので、ネットに対する捉え方や危機感も違う。その集合体である学校で、いかに情報教育を効果的に進めていくのか悩む。(小)
- (5) 実際にスマホのトラブルを保護者から相談された時に、どう対応するか困る。(小)
- (6) 子どもとのルール作りについて、実際どのようにしたらよいか悩む。(小)
- (7) 中学生になると、反抗期も重なり、どのように対応すればよいか難しいと考える。厳しく時間制限をしても、反発心が大きくなるのではと心配している。(小・保護者)
- (8) 親が知らないうちに、ゲームやアプリを通じて友達以外の人とつながってしまうことが心配である。メッセージのやり取りなどできてしまうので、どんな人とつながっているのか把握しきれない。(中・保護者)
- (9) 友人同士で、フォートナイトをずっとしている。時間制限をしているが、時間制限解除に対する親子の交渉がすごく難しい。年齢制限があるのは知らなかった。(小・保護者)
- (10) 小学校に通う低学年の子どもが、帰って高学年と遊ぶとき、動画を撮る(TikTok)ことになり、なかなか断れず、向こうの親にいちいち伝えないといけないことがあり、子どもにどのように伝えたらよいか迷う。(すべての行為を把握できるわけではないので)(小・保護者)
- (11) 今、小3の男の子だが、ゲームの時間を一時間と決めている。しかし、それ以外でお友達の家でやるようになってしまい、時間制限もなくなり困っている。また、ママ友の話で、家で厳しく言われている子が、家に遊びに来た時に、みんな外に遊びに行った時もその子だけ必死になってゲームをしていたと聞き、それはそれで、怖いと思った。どうしたらよいか悩む。(小・保護者)

4. 今後、市教委主催の研修で、実施してほしい研修内容がありましたらご記入ください。

- (1) 今回のようなスマホ関係の研修をやってほしい。知らない知識を学べるので。(小・保護者)
- (2) 子どもと一緒に参加できるスマホ、SNS研修会があればありがたい。(小・保護者)
- (3) このようなことを、市内小中学生にお話ししていただきたい。このコロナ禍でもとても重要な問題なので、市教委で石川さんを各校に呼んでほしい。(小・保護者)

- (4) 小学生高学年くらいにする家庭ですべき性教育について。(小・保護者)
- (5) LGBT や性教育について。(中)
- (6) 校務支援システム研修。(市内で統一すべきこと、作成方法など)(小)
- (7) ネットでお金のかかることの大変さ、仕組、その後の問題について。(小・保護者)
- (8) 両親が働く時代、家で留守番する子どもの4割が寂しくてネットで出会いを求めているという。そこで、親が子どもに向き合う時間をとる大切さと、大変さの対処法などを教えてほしい。(小・保護者)
- (9) 発達障害の子どもの、スマホの使い方について教えてほしい。当該の子どもは、外にあまり遊びに行かず、スイッチやスマホが楽しくなってしまう依存になりやすい。マイクラなどやらせてあげるとすごい能力を発揮するので、やらせてあげたいが、やめずに困っている。(小・保護者)

熱中症予防対策研修会 実績報告書

【日 時】 令和2年8月18日（火）14：30～16：30

【場 所】 生駒北コミュニティセンター ISTA はばたきホール

【講 師】 大阪国際大学人間学部スポーツ行動学科教授 井上芳光 氏

【参加者】 155名（幼稚園・こども園・保育園 28名、保護者 12名、小学校 75名、中学校 40名）

【テーマ】 子どもの発汗能力と熱中症予防

【ねらい】 ・平成28年8月16日、生駒市立中学校において、運動部活動中に熱中症により男子生徒が救急搬送され、その後亡くなるという重大事故が発生した。生駒市では、二度とこのような事故を起こさないよう、そして事故を忘れないよう8月16日を「安全を確認する日」とし、生駒市教職員全員で、熱中症予防と対策について理解と見識を深める。

【コロナウイルス感染予防対策】

- ・席の間隔を一席分開ける。
- ・参加者のマスクの着用及び手指消毒の徹底
- ・マイクの消毒及びマイクカバーの使用
- ・参加者の座席把握（アンケート用紙に氏名と座席番号を記入）

【アンケートより】

1. 本日の研修内容について

	1 とても良い	2 良い	3 普通	4 あまり良くない	5 良くない
保護者	6	3	0	0	0
保・幼	11	13	2	0	0
小学校	36	29	7	0	0
中学校	14	17	6	0	0
合計	67	62	15	0	0

◆ 主なご意見

- (1) 熱中症の恐ろしさやメカニズムを学べたので、危機意識が高まった（小）
- (2) 毎年熱中症の研修をしていただいているが、子どもの体や汗の仕組み等について、子どもたちのデータを多く取り入れて話をさせていただいて、今までより具体的に学べた。（幼）
- (3) 児童と大人の発汗機能の違いに驚いた。人間の体の仕組みまで考えての話なので大きな学びとなった。（小）
- (4) 熱失神、熱痙攣、熱疲労、熱射病の4つの違いについて理解することができた。大人と子どもの発汗能力について比較していくことで、より理解が深まった。（中）
- (5) 熱中症予防の救急処置を表面的に学ぶのではなく、体内でどんなことが起こっているのか、目の前の幼い子どもたちの発汗能力について知っておくこと、さらに個人個人の体格や特徴をしっかり把握しておくことなど、改めて生命保持という視点で教えていただけたことに感謝する。（幼）
- (6) 生徒と大人では、発汗機能に大きな違いがあるので、自分の感覚だけで考えてはいけないとい

うことがわかった（中）

- (7) 大人より子どもの方が、熱中症リスクが高く、普段からよく見ていこうと思う。また、「しんどい」が言いやすい関係づくりを意識していく。（中）
- (8) 例年この研修会を受講している。熱中症の怖さはわかっているつもりでも、その季節になってみないとわからないのが人間である。何度も受講することにより、自覚することにつながるであろう。（小）
- (9) 励まされると頑張ってしまう子どもたちに対し、いかに周りの大人が正しい知識を共有し、十分な対策を講じながら熱中症を予防しないといけないことを再認識することができた。（幼）
- (10) 熱中症といっても色々なパターンがあること、また、自身が体験したこともある内容を改めて思い出した。娘が、体力の無さからすぐに顔を真っ赤にして「しんどい。」ということについて理解できた。今後、気を付けてみることの良い機会となった（中・保護者）

2. 本日の研修の内容は、授業実践や生活で役立ちますか

	1 とても良い	2 良い	3 普通	4 あまり良くない	5 わからない
保護者	5	4	0	0	0
保・幼	13	13	0	0	0
小学校	37	32	0	0	2
中学校	15	21	1	1	1
合計	70	70	1	1	3

◆ 主なご意見

- (1) 真夏の部活動において、生徒たちに自分の体を守るために、自分の体調と相談して自主的に水分補給をさせる。これはぜひ取り入れたいと思った。
- (2) 体内温度の平熱（約37度）から危険な体温の基準となる40度までは、あと3度という感覚を持っておくことも大切だと思った。（小）
- (3) 日ごろから子どもの身体の状態を把握しておくことの大切さを再確認した。幼児は、大人が見極めなければならないので、動き方など観察する先生の気づきが重要だと思った（幼）
- (4) 熱射病は、急にならないということで、普段から生徒の様子をしっかり見て活動しようと思った。また、強制飲水を心掛けていこうと思う。そこから自由に飲める環境づくりも考えていこうと思う。（中）
- (5) 自由に水分補給ができる環境が大切であり、子どもが自分の身体を自分で守れるようになる。そのために日ごろから職員が声掛けや意識を高く持つておくことが必要だとわかった。（幼）
- (6) 熱中症には段階があることや、児童の発汗機能が未発達であること、季節によって体温の上がり方が大きく違うこと、子どもの様子をイメージしながら指導をしなければならないこと、睡眠不足だと汗がでにくくなること、などがわかった（小）
- (7) これから二学期、まだまだ暑い日があり、運動会の練習も始まる。運動まではいなくても戸外あそびの時間にも気を付けるようにしなければならないと改めて思った。（幼）
- (8) 子どもの方が汗をかきやすいと思っていた。大人の方が効率よく汗をかき調整できる。自分が子どもの時は今より我慢できるし、毎日運動している分、子どもの方が強いと思っていたので、より注意が必要だと思った（中）
- (9) 部活中に「しんどい。」と言える雰囲気を作ること。自分の感覚で大丈夫と決めつけるのではなく、子どもであることをしっかり理解し常に様子を見ること。（中）
- (10) 男女における性差や、弱い生徒を見るという視点は無かったので、女子部の顧問としていろいろ考えさせられることがあった。（中）

3. 熱中症対策で一番困っておられることを具体的にご記入ください。

- (1) 熱中症予防のため、アクエリアスなどを取得するとよいと言われているが、幼児には糖分の取りすぎになること。(幼)
- (2) 小さい子どもは、自分で訴えられないこと。(小・保護者)
- (3) 児童が全然水分補給をしない。休み時間毎に水分を取るよう声掛けをしているが、それでもなかなか飲まない子がいること。(幼・小・中)
- (4) 体育時の水分の与え方について、タイミングなどが難しいこと。(小)
- (5) コロナウイルスとの兼ね合いが難しいこと。(幼・小・中)
- (6) 体育館が暑いこと。(小・中)
- (7) WBGTを測定しているが、日中暑すぎて外へ出られないこと。(幼)
- (8) WBGTが基準を下回っているからといって、安心できないこと。(幼・小・中)
- (9) 下校のころには、身体中熱くなっているようで、マスクであせもがができるのは仕方ないが、へとへとで帰宅してくること。(中・保護者)
- (10) 実際、学校では直腸体温が測れないこと。(中)
- (11) 幼児なので、生命を守るための習慣が身につけにくいことが日々不安であり、教員側の危機感を高めることを求められていること。(幼)
- (12) コロナ対応と熱中症の両立。窓を開け、喚起しながらのエアコン仕様では、あまり室温が下がらないこと。(幼)
- (13) コロナ禍で、マスクを外すタイミングが分からない。「マスクを外す時は離れましょう」と指導しても、なかなか徹底できないこと。(小)
- (14) 休業期間が長く、体力が落ちている子や規則正しく生活できていない子が増え、熱中症に対して不安を感じる事。(小)
- (15) 7月から早々に体育の授業がなくなり、体力低下が心配なこと。熱中症対策とは思いますが、体力が低下しないようなカリキュラムもご検討いただきたい。親は週末しか運動に付き合えない。(小・保護者)
- (16) エアコンがあるが、外で遊んで汗びっしょりになって帰ってきた子どもたちに、最適な温度は何度なのかということ。(小)
- (17) 家から水筒を持ってこない子がいること。(小)
- (18) 頑張りすぎてしまう子がいるが、適度な運動量には個人差があり、分からないこと。(中)
- (19) 教師一人に対する児童数が多い。気温はどうか、水をきちんと飲んだか、具合はどうかなど、どれだけ気を付けても100%とは言えず、安全確認などに物理的な限界を感じる事。(小)
- (20) 冷水浴用バスタブが学校に無いこと。(中)
- (21) 屋外の日影が少ないこと。(中)
- (22) 学校にミスト扇風機が1台しかないこと。(中)
- (23) 全ての学校の校長が、部活動や体育の授業を中止の判断を下せるかどうかということ。(中)
- (24) 教員に休憩時間がなく、1時間目から6時間目の授業、そして部活で6時までグラウンドにいる日があること。(中)
- (25) 個人の健康チェックシートを提出させて、授業前に体調を確認しているが、個々の対策の程度は難しいこと。(中)
- (26) 中学校の運動部にとって、最後の大会が一年間で最も暑い時期に行われていること。(中)
- (27) 部活動時に休憩や水分補給を促しても生徒は「大丈夫です。」と言って練習をしたがること。(中)
- (28) 熱中症の対策が、各部活動に委ねられていて曖昧であること。(中)

4. 今後、市教委主催の研修で実施してほしい研修内容がありましたら、ご記入ください。

- (1) この研修をもう一度全ての先生方にしてほしい。とても興味深く意味のある研修であった。(小)
- (2) 子どもたち自身に、生活習慣の改善が図れる内容を直接聞かせてあげる機会。(中)
- (3) 体力のない子どもや運動嫌いの子に、少しでも体力をつけさせるための方法(体操ストレッチなど)について(中・保護者)
- (4) 昔と比べた子どもの体質の変化など、子どもの健康に関わる話(小・保護者)
- (5) LGBT教育について(小・中)
- (6) 性教育、命の教育、SNSの研修(小)
- (7) 校内ネットワーク、モニター接続等の研修。(中)
- (8) ICT教育、プログラミング(小・中)

○ 令和 2 年度生駒市教育委員会主催夏期研修会の総括

- ・ 各会場において、定員を従来の半数にし、ソーシャルディスタンスの確保、参加者のマスク着用や手指消毒の徹底、マイクの消毒及びマイクカバーの使用、さらに、参加者の座席の把握や、希望者にオンラインでライブ配信を行うなど、感染予防を講じながら開催した。
- ・ スマホ・SNS 研修会では、NPO 法人奈良地域の学び推進機構の石川千明氏に、SNS の利用の低年齢化やコミュニケーションがしづらい子どもたちによる「SNS トラブル」、長時間利用による肩こり、睡眠不足、視力低下、昼夜逆転現象等の「健康の問題」、ネットで出会いを求める「子どもたちの背景」について、事例をあげながら具体的に教えていただいた。また、子どもと一緒にルールを考える大切さ、それでも子どもが困った時に安心して相談できる場所づくりや対処法など、参加者が学校や家庭に帰ってすぐに取り組める内容で、「すべての学校で講演してもらいたい」「他の人にも聞いてもらいたい」と好評であった。これからも、定期的に新しい情報を共有する機会を作るとともに、市教育委員会の「学校における携帯電話の取扱いに関するガイドライン」にあるように、生徒自ら律することができるルールを学校のほか、生徒や保護者が主体的に考え、対話をしながら協力して作ることが求められる。
- ・ 生駒市熱中症予防対策研修会では、大阪国際大学の井上芳光教授から、「ヒトはなぜ汗をかくのか」「子どもの体温調節の特性」「スポーツ活動中の熱中症予防と応急処置」について、子どもの検証データと照らし合わせながら教えていただいた。今年も、学童保育の指導員も参加していただいた。参加者からは、「科学的根拠を基に話を進めていただいたことで、熱中症の予防や応急処置について、表面的なことではなく、子どもの身体の中で起きていることを予測し、より効果的に対応できる手がかりとなった。」「熱中症は、大人と子ども、男女、体格、さらには生活習慣などによってなりやすさが異なる。」「大人の感覚を頼りに判断するのではなく、日頃からの子どもの観察が熱中症予防にはまず必要である。」などの感想をいただいた。毎年熱中症予防の研修会をしているが、繰り返し行うことで、熱中症について再確認し、教職員一人一人に熱中症の恐ろしさと予防の必要性を自覚する手がかりとしたい。

○ 次年度に向けて

- ・ 熱中症予防対策研修会は、今後も 8 月 16 日の「安全を確認する日」に開催する。
- ・ 自殺予防のみならず、自傷行為への対応を含む援助希求行動促進のための「SOS の出し方教育研修」を実施する。
- ・ GIGA スクール構想における、ICT 機器を活用した授業づくりについての研修を実施する。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての研修会やプログラミング教育についての研修会を実施する。
- ・ ファシリテーター養成、ディベートに関する研修会について検討する。
- ・ 男女共同参画プラザと連携し、LGBT や性教育に関する研修会について検討する。

